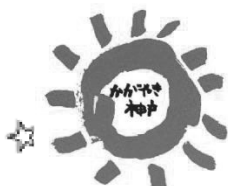


KSKT

かがやき



■目次■ P1「池山理事長の挨拶」 P2「2018年度事業計画」 P3「情勢報告～報酬単価改正」 P4「新ホーム開設に向けて」 P5「法人・支援する会の動き」 P6「報告～『西区当事者発表会』『地域ふれあいまつり まなぶ』」 P7「支援する会報告」 P8「会費納入を頂いた方・お願い・編集後記」

今年度も～当事者の皆さんから学ぶ～を基本方針に

社会福祉法人かがやき神戸
理事長 池山美代子

この便りが皆様に届く頃には、桜だよりが南から北上していると思います。～春よ来い・早く来い～の歌を歌いながら待ちわびた春でした。今年の冬は「日本ってこんなに雪が降る国だったかしら？」と不思議に思うほど、北日本や北陸また四国・九州まで雪に覆われ雪害に悩まされたので、今年は、誰もが春を待ちわびる気持ちはひとしおだったと思います。

さて、いよいよ新年度がやって来ました。かがやき神戸においても、人事異動などで少し慌ただしい4月のスタートとなりました。どこの業界も人材確保に厳しい状況の中で、福祉業界においてはより一層人材不足と言われています。そのような中ですが、かがやき神戸では新卒も迎え、なんとか人材も揃い、新たな春に新風を期待したいところです。

しかし、そのような気持ちに水をさすように、2月上旬に厚生労働省が障害福祉サービス等の報酬改定を発表しました。これまで以上に成果主義が助長され重度障害者や精神障害者の方々を支援している事業所は運営が立ち行かなくなりかねない状況が見えて来ています。

かがやき神戸においては、法人設立時から障害種別を超えて、すべての障害者の方々を受け入れてきました。支援の質においても手厚く、きめ細かい支援が必要な方々であり、報酬単価に反映されてもいいはずですが、現実には反対に低く抑えられています。本来、報酬改定に欠かせない大切な視点は、障害者権利条約の具現化であるべきだと思います。日本は障害のある人たちの生活の支援にかかる予算（政府予算に占める障害保健福祉施策）の水準が低すぎると言われています。国家予

算の配分が国防費等に増額され、社会保障費が削減されていくというのは、本末転倒だと言えます。平和でなければ誰もが安心して暮らしていきませんが、それは決して国防費を増額し、オスプレイを買う事ではないと思います。冬季オリンピックで南北朝鮮がそろって聖火ランナーになった姿からは平和の大切さが伝わってきました。

かがやき神戸の2018年度の重点方針に、「障害当事者・家族の真摯に生きる姿勢から学ぶ」があります。一人一人の職員は日々の実践現場で「人として真摯に生きるとはどういうことか」という事を、当事者の皆さんと接する中で学んでいると思います。また、毎年開催される「かがやき神戸当事者発表会」の場はさらにそのことを深く学ぶ機会になっています。今年も2月10日に開催され、参加された皆さんは、まさにその事を実感されたと思います。企画から当日運営全般（司会・受付・写真担当・音響など）のほとんどを、当事者の皆さんの実行委員会中心に行いました。職員は一日裏方に徹していました。当事者・ご家族・職員・法人役員・外部の関係機関などの方々が参加して、各事業所を利用されている当事者の発表に耳を傾けました。一人一人の発言から「仲間がいて安心して働ける場の大切さ」がメッセージとして届き、かがやき神戸の将来構想へ反映されていかなければならないという決意につながりました。今年度もよろしくご支援・ご協力お願いいたします。



（絵：藤田 希）